

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 令和元年10月16日(水) 13:30~15:15
- 2 開催場所 天草市港町9番1号 天草ケーブルネットワーク(株)会議室
- 3 出席委員 委員総数 7名
出席委員数 5名 欠席委員数 2名
出席委員の氏名 松下美奈子(委員長)/古賀源一郎/中川竹治
/永田章一/横山理恵
欠席委員の氏名 野上俊樹/原田竜一
放送事業者側の出席者 代表取締役 馬場昭治 メディア事業部長 芥川琢哉
営業企画課長 藤川陽介 ラジオ制作課係長 脇坂公敏
オブザーバー 天草市秘書課広報広聴係主査 赤星泰志

4 議題

- [1] 開会、委員長挨拶、社長挨拶
- [2] 報告事項
- [3] 番組聴取、審議
- [4] その他

5 議事の概要

- [1] 松下委員長が開会宣言、委員長挨拶を行い、続いて代表取締役 馬場昭治の挨拶の後、直ちに議事に入った。
- [2] 報告事項
ラジオ制作課 脇坂より、昨年末からの特別番組、今後の予定、その他報告を行った。議長は報告事項について意見を求めた。
 - ① 天草ほんど花火大会「ファンタジーナイト with みつばちラジオ」について
 - ・スマホで聴いたらちょっとタイムラグがあった。
 - ・駐車場情報、交通情報はありがたかった。本渡港にどんどん車が入ってきていた時に駐車場情報を流していた。花火を見に行く人たちにとっては、一番必要な情報だった。
 - ・【芥川】花火終了後、かなり渋滞していた。放送終了は午後10時だったが、その後も混雑していたので、今後の課題として、放送時間を延長し、ラジオを聴きながらリラックスした状態で帰っていただけるような構成にする事も検討したい。
 - ・渋滞緩和の見通しがたたない事がイライラの原因になる。どのくらいで渋滞から抜けるのかといった情報を流し、心地よい音楽をかけると、遠方から来た人も楽しんでもらえ、みつばちラジオを聴いてもらえる、そこまでを天草の花火大会だと思っただけのような作り込みをお願いしたい。
 - ・【藤川】緑地公園周辺から北浜町の辺りが渋滞していた。北浜町には路上駐車が多く花火終了後、およそ1時間半、全く車が動かない状況だった。
 - ・港町付近は、混んではいたが動かない程ではなかった。

② 「みつばちラジオ de Let's 天草ハイヤ道中総踊り」

- ・ 5時間生放送は長すぎたのではないか。作り手側も聴く側もどっちも間延びした。
- ・ 特に表彰式は、映像のないラジオの放送では分かりづらかった。
- ・ 道中総踊りの部分は延々とハイヤだったのか。
- ・ 【芥川】 踊りが始まったら現場音（ハイヤ）にて放送した。団体、チームの紹介、レポートを交えながらの放送だった。
- ・ 【藤川】 踊り手、中継所で休憩する人、他所から来ているカメラマン、観光客、マルシェに出店している人など10分おきにインタビューを行った。さすがに、3時間過ぎたあたりから間延びを感じた。質問する内容も、答える内容もだんだん似てくるので苦労した。
- ・ ラジオなので、映像がないので難しかったと思う。よく努力されたと思う。
- ・ 来年はさらに工夫をして放送を行って欲しい。

③ みつばちラジオの歌について

- ・ リスナーへのご披露はいつから行うのか。
- ・ 【芥川】 今週から紹介文付きで各生放送の番組で紹介している。また、ケーブルテレビでも番組のエンディングのBGMで使用、「みつばちラジオ」の歌とクレジットを打って流している。

④ 中継車について

- ・ 【馬場】 目立たないと意味がないので派手なデザインにした。車のナンバーも888が取れた。
- ・ 【芥川】 上に200kgまで乗せれるキャリアを付け、人が登って宣伝、カメラを乗せてテレビの取材もできるようにした。
- ・ 駅伝やマラソンなど動きながら放送、撮影ができるのか。
- ・ 【芥川】 警察、その他に届出が必要であり、まずは、中継車を止めての運用と考えている。
- ・ スピーカーはつけているのか。みつばちラジオの歌を走りながら流すだけでも宣伝効果があるのでは。イベント会場に近づく時、音楽を流して、「みつばちラジオがやって来た」という認識を市民の皆さんにもってもらうのは、注目も集まり、よいアピールになるのでは。
- ・ 【芥川】 検討をすすめた。

⑤ その他

- ・ 【芥川】 前回の審議の中で、「わわわのハピハピHappy! オヤモコモ」の放送時間についてご指摘があった。わわわさんと協議を行い、水曜日の午後で調整して再放送枠を設ける方向で進めている。
- ・ 【芥川】 同じく、みつばちラジオの看板の件は、上天草市の藍のあまくさ村の向かいに天草ケーブルネットワーク(株)の上天草営業所を整備し、そこに看板を設置する事となった。デザインもできており、道沿いになるので熊本方面から来る方が見ると「みつばちラジオ」の看板、天草方面から見ると「ケーブルテレビ」の看板となる仕様になっている。

[3] 番組聴収、審議

① 2019年8月29日（日）体験！子どもパーソナリティ

- ・子どもたちがパーソナリティを体験する場がある事はとても良い事だと思う。昔はなかった仕事が増えてきており、新しい仕事ができきているこの時代にいろんな職種に触れるという事は大事であり、子ども達の世界観が広がる事や、なりたい仕事について考える事についてとても役にたつ取り組みだ。
- ・自分が幼少の頃から知っている子どもが出演していた。名前がでる事で、成長しているなど感じて聴いていて楽しかった。リスナーの人も子ども達の楽しさを感じてくれるのでは。
- ・仕事中に聴いていても、子どもの声で時報が流れるとほっこりする。緊張しながら話しているのも微笑ましく感じた。聴いていて、見守りたくなるような番組だった。
- ・地域とか学校とかに偏りはないか。募集のかけ方はどのようにしたのか。天草市は広域なので、このラジオ局の周辺に偏っていないか。
- ・【芥川】募集については、テレビの「子どもキャスター」事業と併せて行っている。天草市教育委員会に後援をいただき、教育委員会を通して天草市内の各学校にチラシを配布してもらって募集している。テレビの方が上天草市もエリア内になっているので、上天草市内の各学校にラジオの方も募集をかけている。一番遠いところでは龍ヶ岳小の子どもも参加している。また、牛深、倉岳、五和、栖本、そして芥北町の志岐からも参加いただいている。（その他、本渡北小、本渡東小、亀川小の子どもたちが参加。）
- ・子供たちにとっては貴重な良い体験だと思う。自分の声がラジオで流れる。放送日は別の日なので、自分で自分の放送を聴く事ができる。番組の反響も子どもたちには必ず返ってくる。そのことは、子ども達の自信や希望につながると思う。
- ・【芥川】対象を小学校5、6年としているが、リピート率が高い。来年も参加する子どもや、その弟、妹が参加するケースが多い。
- ・もっと中学生や高校生の活躍の場も作って欲しい。
- ・未来につながる良い取り組みだ。また、二人のパーソナリティの引き出し方も上手で、子ども達の話に上手く受け答えし、番組を盛り上げている。
- ・担当したパーソナリティは二人とも母親でもあり、子ども達の意欲の引き出し方が上手で、子ども達は自然体で取り組む事ができている。

② 2019年10月13日（日）JAT WAVE Sunday

- ・本田さんは、他所でラジオをやっていた人かと思って、感心して聴いていた。
- ・【芥川】一般の方だが、趣味で演劇などをしていた。そういった意味では、経験者と言えるかもしれない。
- ・声も良くて、間の取り方も上手い。
- ・保育園の先生であるので、最初は子どもに言うようなしゃべり方があったが、最近はとても良くなった。上手だと思う。
- ・鶴田先生との掛け合いも上手い。先生を尊敬しながら、話を上手に引き出している。好感がもてる。聴き始めたら、仕事そっちのけで聴き入ってしまう。
- ・コーナーの下調べも頑張っているのが、聴いていて伺える。

[4] その他

①地元情報と全国情報のバランスについて

- ・ニュースについて、全国ニュースをもっと流せないのか。ある理髪店から、全国の情報があまり流れないし、全国のニュースがあまり聞けないので県域局をかけているという話があった。熊日ニュースの中では全国ニュースは配信されないのか。
- ・【芥川】全国ニュースも入っている。天草そして熊本のニュースはロングバージョンで配信され、全国のニュースは1本30秒くらいのショートバージョンで配信されている。全国ニュースに関しては弱いのかもしれない。
- ・【藤川】ラジオ局としての方向性として、みつばちラジオはどっぷり天草となっている。RKKやFMKなどの県域局との違いをはっきり出す為（差異化）だが、方向性はこの方向でよいのか、それとももう少し幅を広げたほうが良いのかご意見を伺いたい。
- ・現状として着実に聴いている層が増えているという実感がある。講演会開催のお知らせのコーナーで講師として私の名前が紹介された時、何人もの人からラジオで聴きましたと声をかけてもらった。今日も言われた。みつばちラジオを聴いている人が増えているなど実感している。ラジオの聴取率はとれないのか。
- ・【馬場】市の調査で、週一回みつばちラジオを聴いている人が35%という数字がでたとの報告は受けている。今年初めのデータである。ラジオを知っている人が9割を超えていた。認知度が高い事には驚いた。
- ・いろいろな会議で、告知が必要となったとき、「みつばちラジオに相談したらいい」と意見が出てくるようになっている。みつばちラジオを利用すれば、皆、沢山聴いてくれると認知をしてもらっている。
- ・聴取率はとれないのか。
- ・逆に数字よりは肌で感じる事の方が重要かもしれない。
- ・【馬場】ラジオの聴取率は難しい。ケーブルテレビだと明確に取る方法があるが。
- ・聴いてもらっている人は確実に増えている。増えてきたからこそ、ニーズが増え、全国の情報をもっと流して欲しいという要望もでてくる。ずっと聴いてくれている人は全国の情報もと感じるのかもしれない。
- ・【馬場】全国の情報を流す方法はあるのか。ミュージックバードは全国のニュース、情報は少ない。
- ・ミュージックバードの番組には小田原や軽井沢のコミュニティエフエムの番組が入っており、全国と繋がっているのだなと感じる。
- ・現代は行動範囲が広がってきている。例えば、今話題の熊本桜町の情報などについては、みつばちラジオの放送内容では弱い。島内のイベント情報は多いが、阿蘇、熊本市内の情報は少ない。テレビもローカルばかり見ていると不安になるが、それと一緒に感じる感覚なのでは。
- ・通しで聴いていると、全国ニュースも入ってくるので他の地域の情報も入ってくるなど感じている。天草島内の情報も扱いきれないほどある。バランスが難しい。
- ・島内の話題を流す事で、島内の人は関心持って聴いてくれる。それが災害が起きた場合、天草の情報はみつばちラジオでと認識してくれるし、より多くの人聴いてくれないと役に立たない。

②災害時情報ネットワーク構築について

天草市の協力を得ながら、進めている「災害時情報ネットワーク構築」について、脇坂より、各支所、コミュニティーセンターを訪問し、情報提供者を募る事の説明を行っている旨の報告を行った。また、区長会等で説明を行う際にわかりやすく、具体的に事例を交え理解を得やすいよう作成したレジュメの説明も行われた。

- ・【芥川】担当者と話をしていて、相手が難しく考えすぎる所があった。そこで、災害メインより、まずは地域の情報を下さいといった形にしたレジュメを作成した。
- ・災害の情報を下さい、地域の情報を下さいとお願いすると、間違っただけの情報をあげたらいけないと固くなってしまふ。また、裏付けをとる必要が出てくる可能性がある。もっとフットワークの軽いサポーター的な人がいいのではと思う。
- ・FAXやメールで送れるような、情報提供のフォームを作ってあげたほうがいいのかもしれない。どうやって書いて送ればいいのか皆さん悩んでいる。何月何日何処で誰が何をといった、そういった思いやりのない相手から情報提供をしてくれという流れを作るのは難しいのでは。フォームに選択項目を入れ、丸をつけるだけのよう形がいいのでは。
- ・地域にいる、地域から離れない、地域に根差しているような仕事をしている人をお願いして進めるのが良いのではないか。
- ・区長さんもいいが、地元の民間の人を探した方がよいのでは。サポーターだから民間人がよい。
- ・【藤川】パーソナリティも各地区ばらけているので、上手く使えば、良い情報が得られるのではないか。
- ・やはり、例えば交通情報、事故と丸をつけて、場所と日付と時間だけ記入し、内容をすこしだけ書けるようなフォームが必要なのではないか。ラジオ局のFAXの番号を記載し、昔ながらにある店などに頼んだらいいのでは。これなら、簡単なのでやってみようかといった気持ちになるのでは。
- ・観光協会の支部などをお願いすれば、フットワークが軽いかもしれない。
- ・市との情報の連携が必要と感じている。
- ・災害時は刻々と状況が変わるので速い連携が必要だ。
- ・今回の台風19号にしても、ちょっと情報が遅れただけで亡くなった人がいる。危険をいち早く知らせる事は重要だ。どうやって情報をいち早く発信するかはとても大事な事である。
- ・9月1日の防災訓練など、中継車を出し、〇〇地区から放送する等やるべきでは。
- ・総務省が許可している、緊急のポータブルの送信機などを準備し、行政と一緒に訓練をする必要があるのでは。災害時にはポータブルの送信機で30分以内で放送が開始できるとの事だが、日ごろから訓練してないと使えないとの事だ。
- ・テレビで特番をしていたが、今回の台風19号による浸水の時、現地のラジオ局のパーソナリティはこれが使命だと3日も4日も家に帰らずに、情報収集をしながら放送を続けていた。ラジオの必要性を感じた。
- ・今現在、いつどこで災害が起こるのかわからない状況だ。50年に一度、100年に一度が一年のうち何回も起こっている。
- ・日奈久断層による地震、震度6から7もいつ起こってもおかしくないと言われてる。
- ・そういう現状なので、今一度、災害時に、情報を、迅速に正しく、いかにして届け

る事ができるか考えて欲しい。

③交通情報について

- ・瀬戸大橋の交通情報だが、熊本方面、スムーズに流れているとラジオで流れていたのに、実際は佐川急便あたりまで混雑していた。どこからの情報を使って放送しているのか、瀬戸大橋の上だけを見ての情報なのか。
- ・【芥川】カメラで瀬戸大橋の上を見ての情報である。橋の上は、信号の関係でスムーズに流れているように見えるが、実際はその周辺で渋滞しているのかもしれない。
- ・【藤川】7:50には社員が現地から交通情報を流すので実際の状況をレポートする。その他の交通情報に関しては、瀬戸大橋の状況をモニターで見て放送するのでこのようになってしまいますのかもしれない。その解消で、国道沿いのコバックさんや佐川急便さんに頼んだが、お盆やGWは可能だが毎日は厳しいと言われている。
- ・ある日、市役所からサンタカミングホテルまで渋滞で30分かかった。本渡はちょっとした事で渋滞が発生する。時間帯によっては瀬戸大橋周辺、サンタカミングホテル付近まで渋滞になる。金曜日、それから連休前になると渋滞が発生し、山口から下浦まで1時間近くかかる時がある。
- ・上手くラジオで渋滞情報を流して欲しい。朝、夕方の生放送での交通情報はみんな聴いているようだ。
- ・【芥川】十万山のカメラでは、市役所付近は死角になって見えない。逆に志柿町付近は、はっきり見える。
- ・【馬場】テレビも含めて交通カメラは整備していきたいと考えている。
- ・ぜひ、早く実現して欲しい。

以上、すべての審議が終わり、松下委員長は閉会の辞を述べ、委員会は終了した。

○審議機関の答申または意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページ（11月予定） <http://www.acn-tv.ne.jp/>